

※7月17日菊池川河川事務所
記者発表より

令和2年7月豪雨に伴う出水の概要

- ・ 菊池川の出水の概要

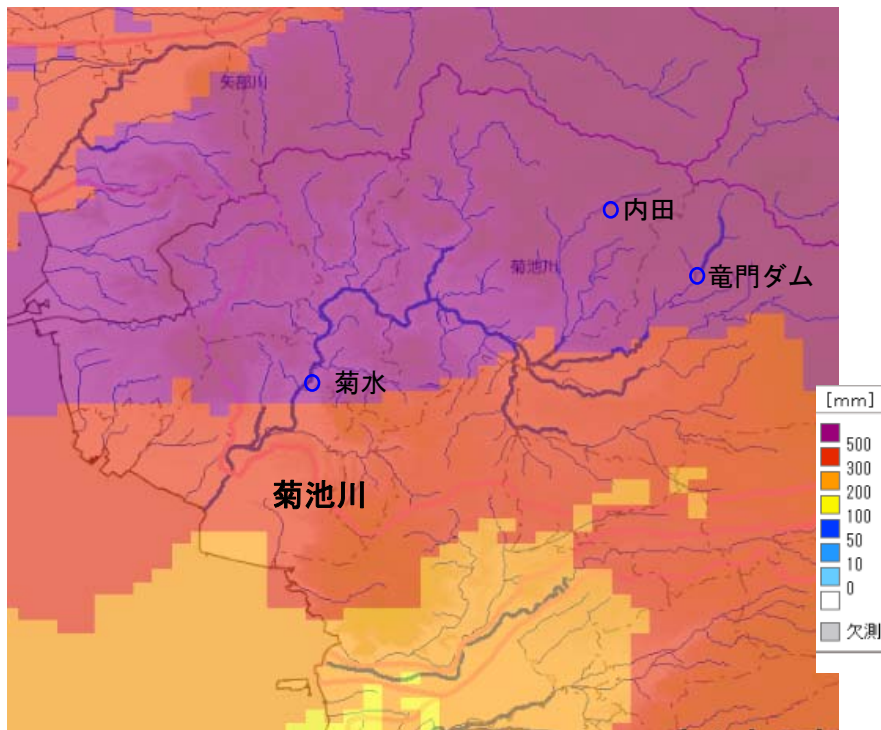
令和2年9月28日
菊池川河川事務所

1. 7月6～8日出水概要（菊池川水系）

令和2年7月6～8日にかけての梅雨前線により、記録的豪雨を観測

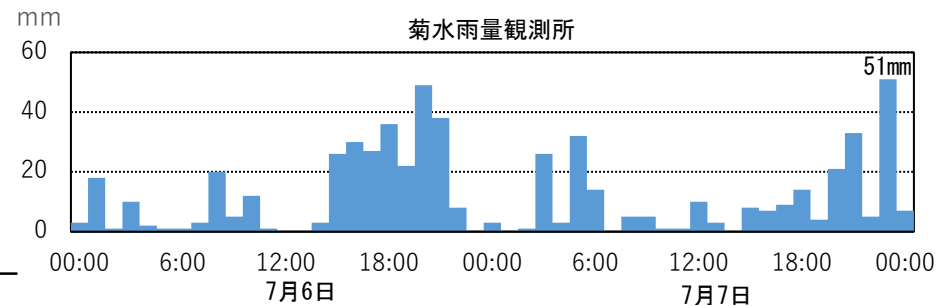
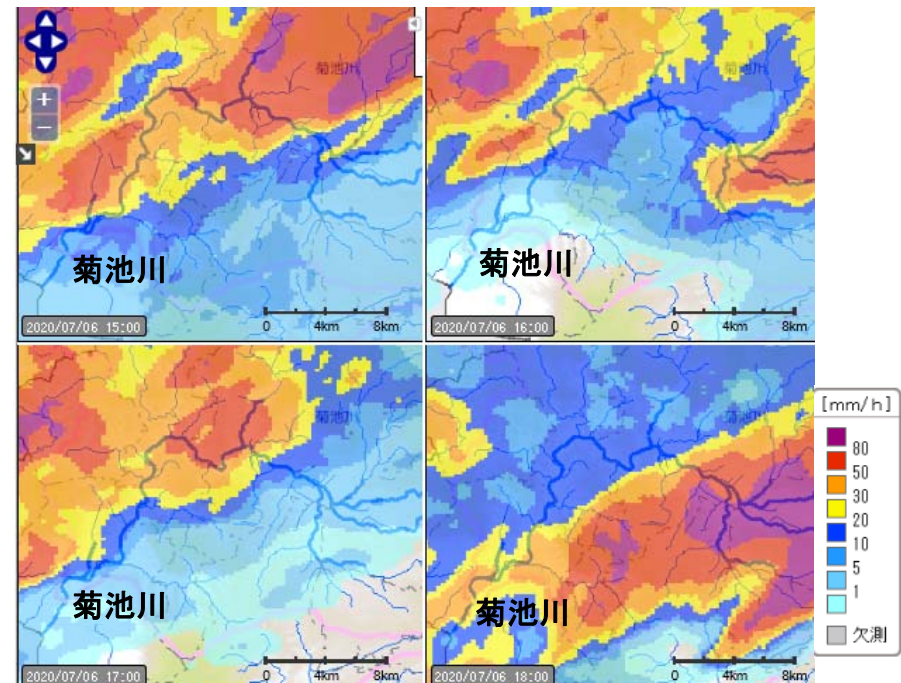
■降水量	菊水雨量観測所	24時間雨量	359mm	(7/6 6:00～7/7 6:00)
	内田雨量観測所	24時間雨量	488mm	(7/6 6:00～7/7 6:00)
	竜門ダム雨量観測所	24時間雨量	384mm	(7/6 7:00～7/7 7:00)

■累加雨量

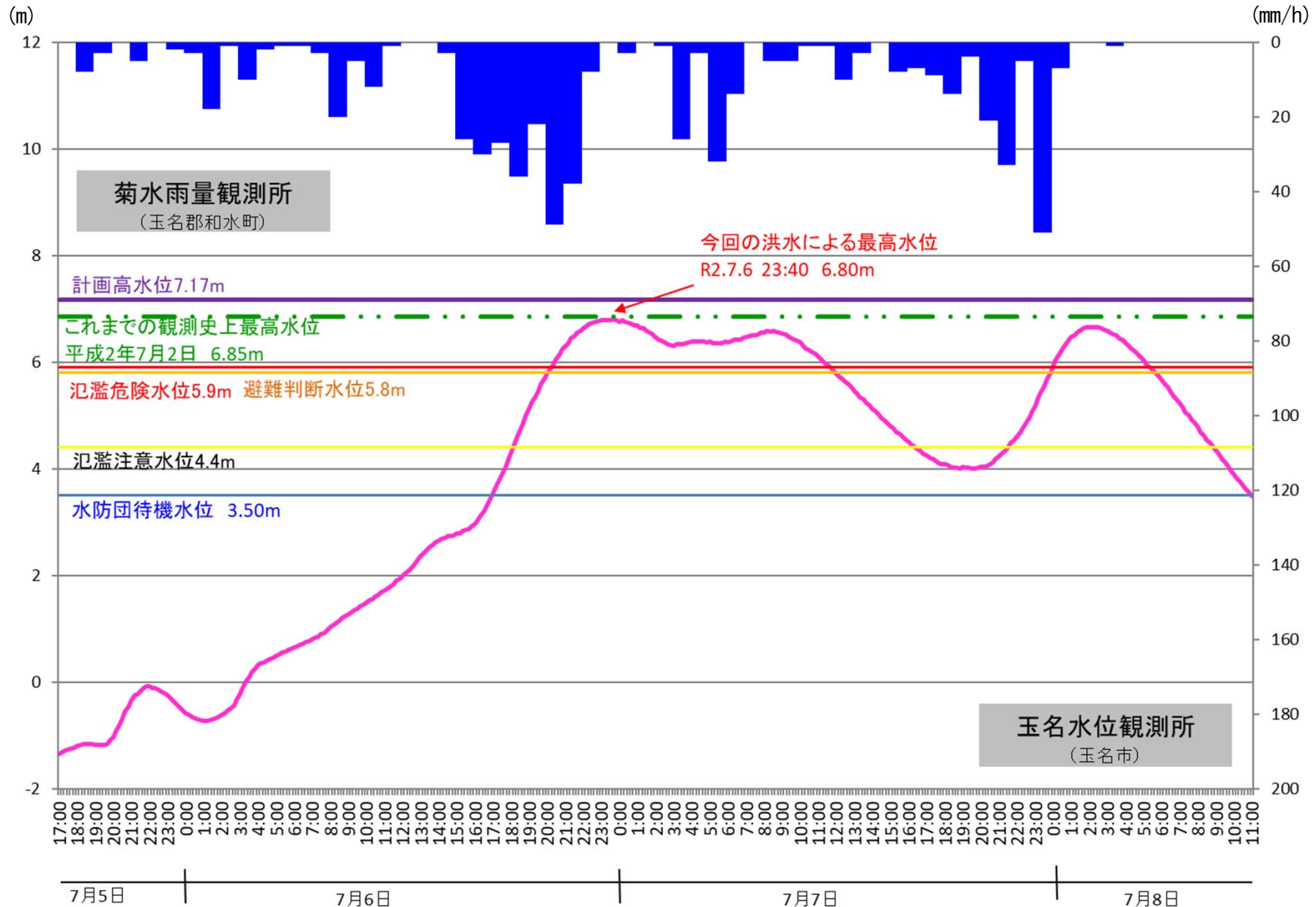


累加レーダ雨量
(7月6～8日)

■雨量履歴

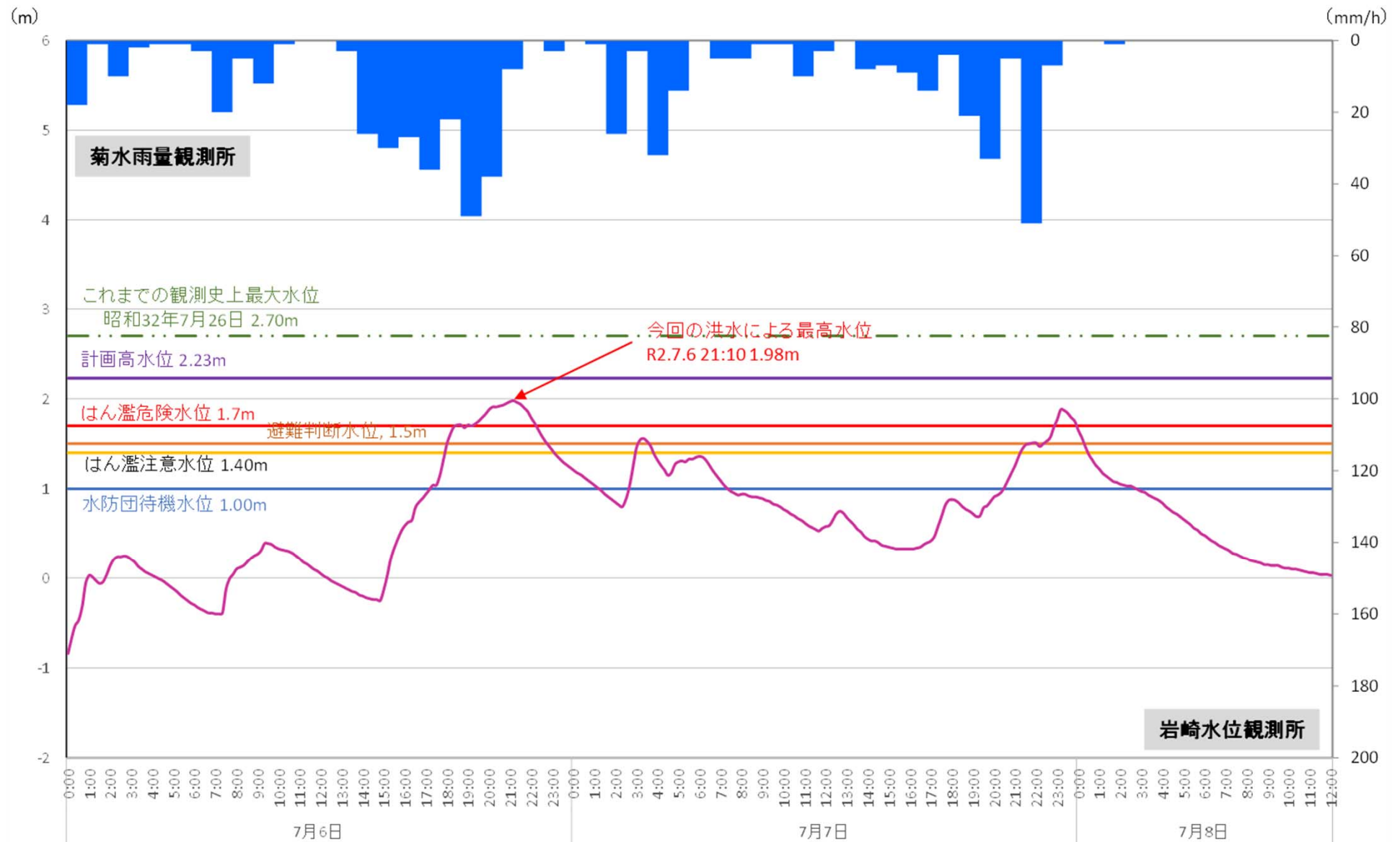


1. 水位の状況（玉名）



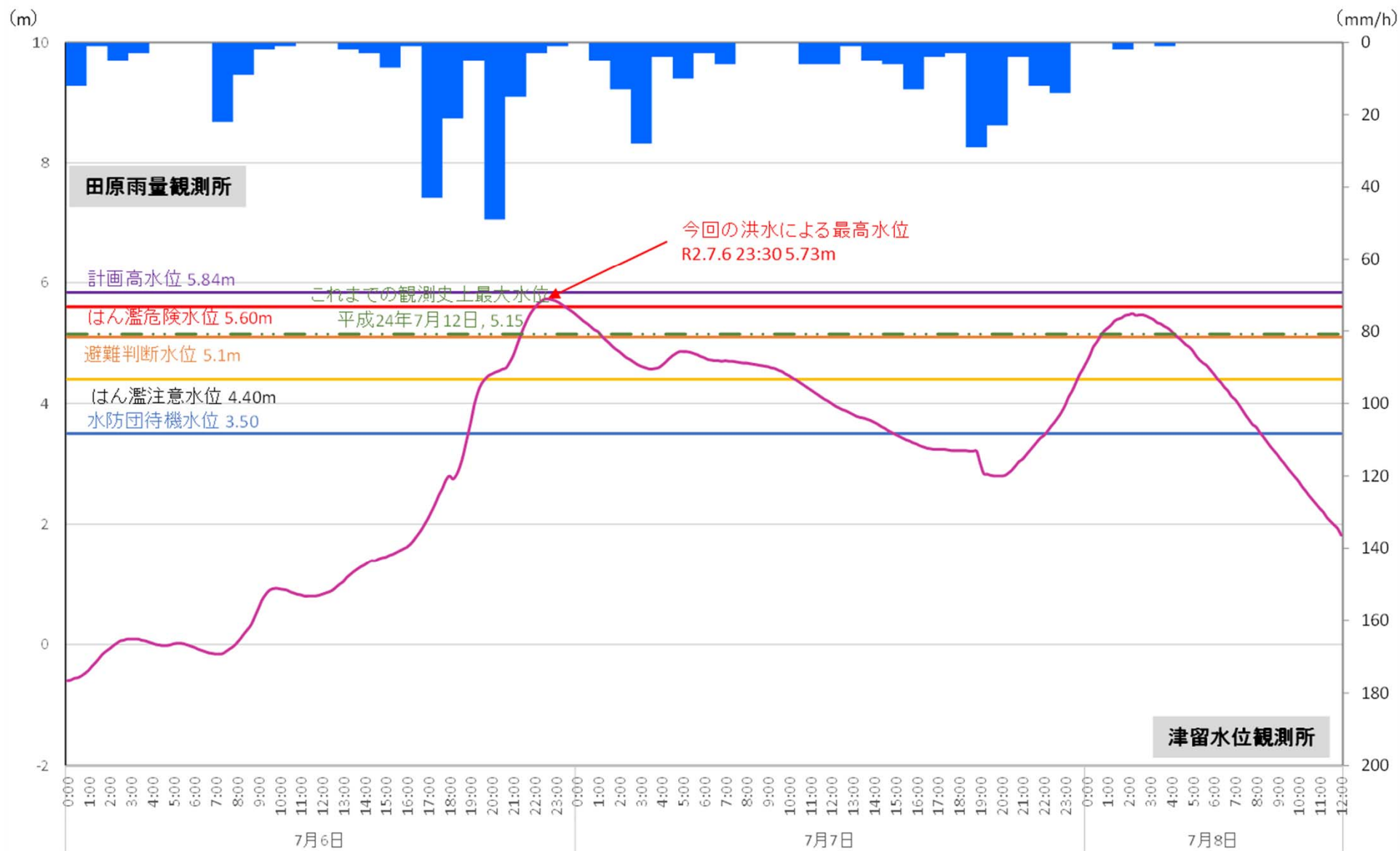
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

1. 水位の状況（岩崎）



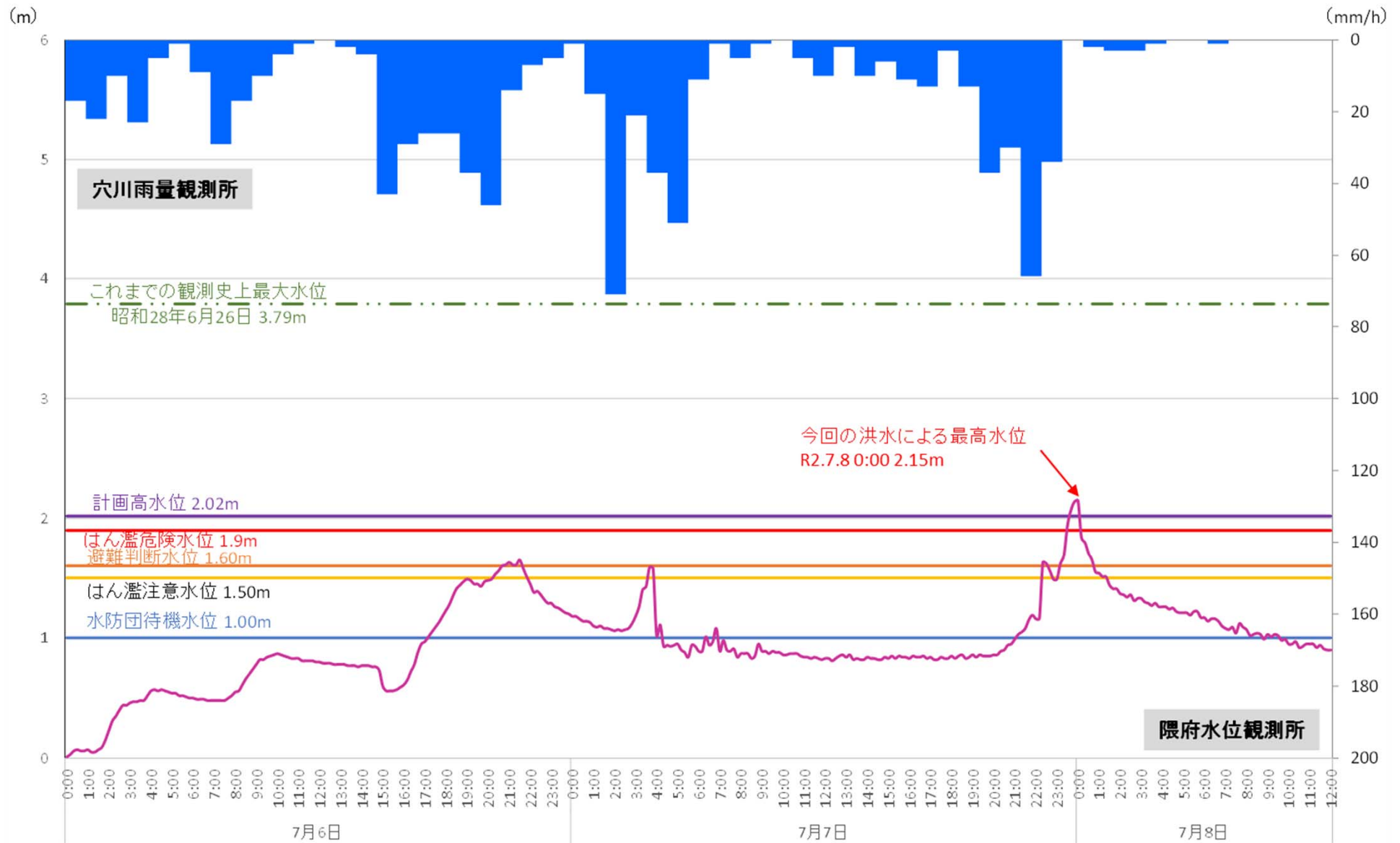
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

1. 水位の状況 (津留)



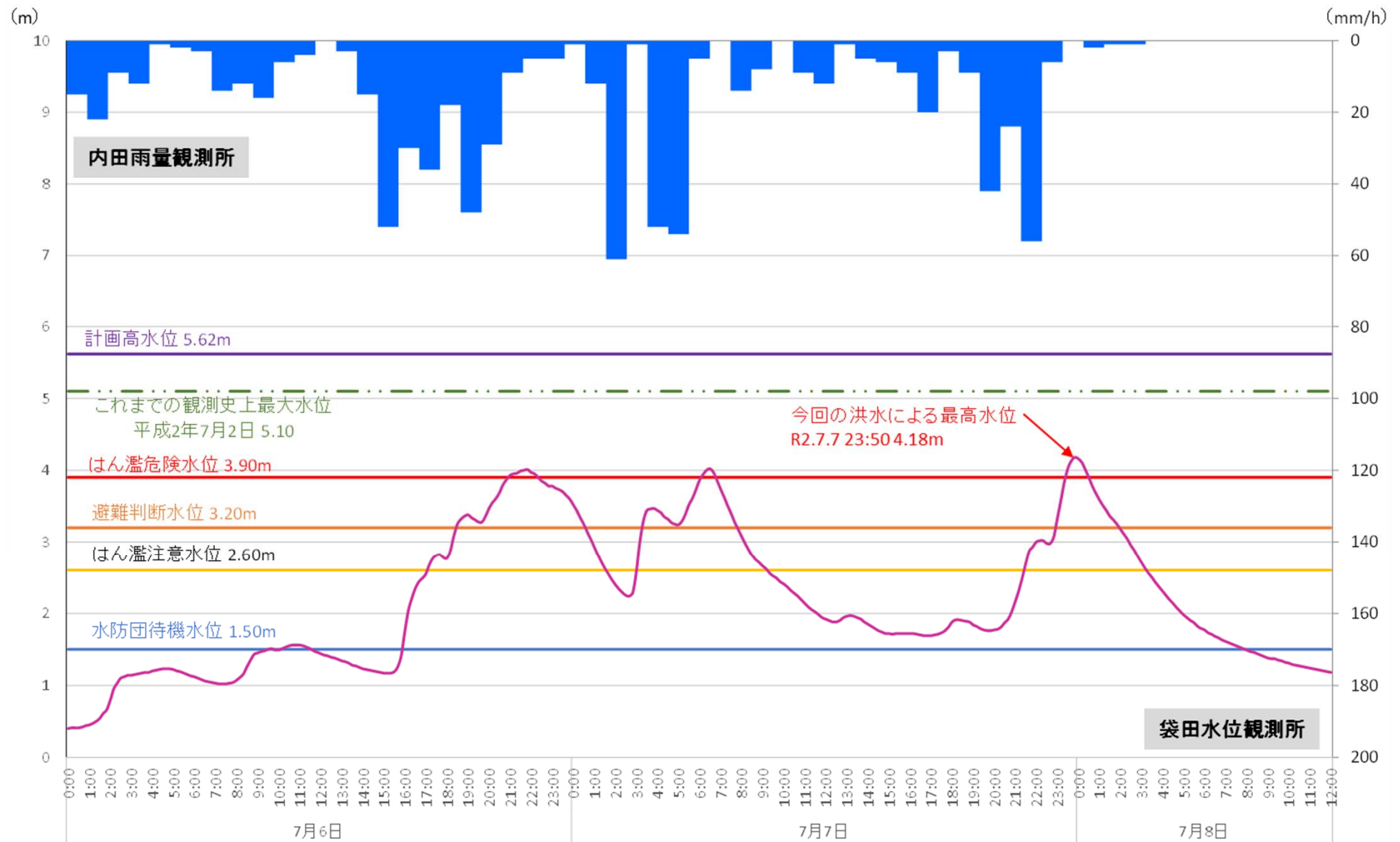
※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

1. 水位の状況（隈府）



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

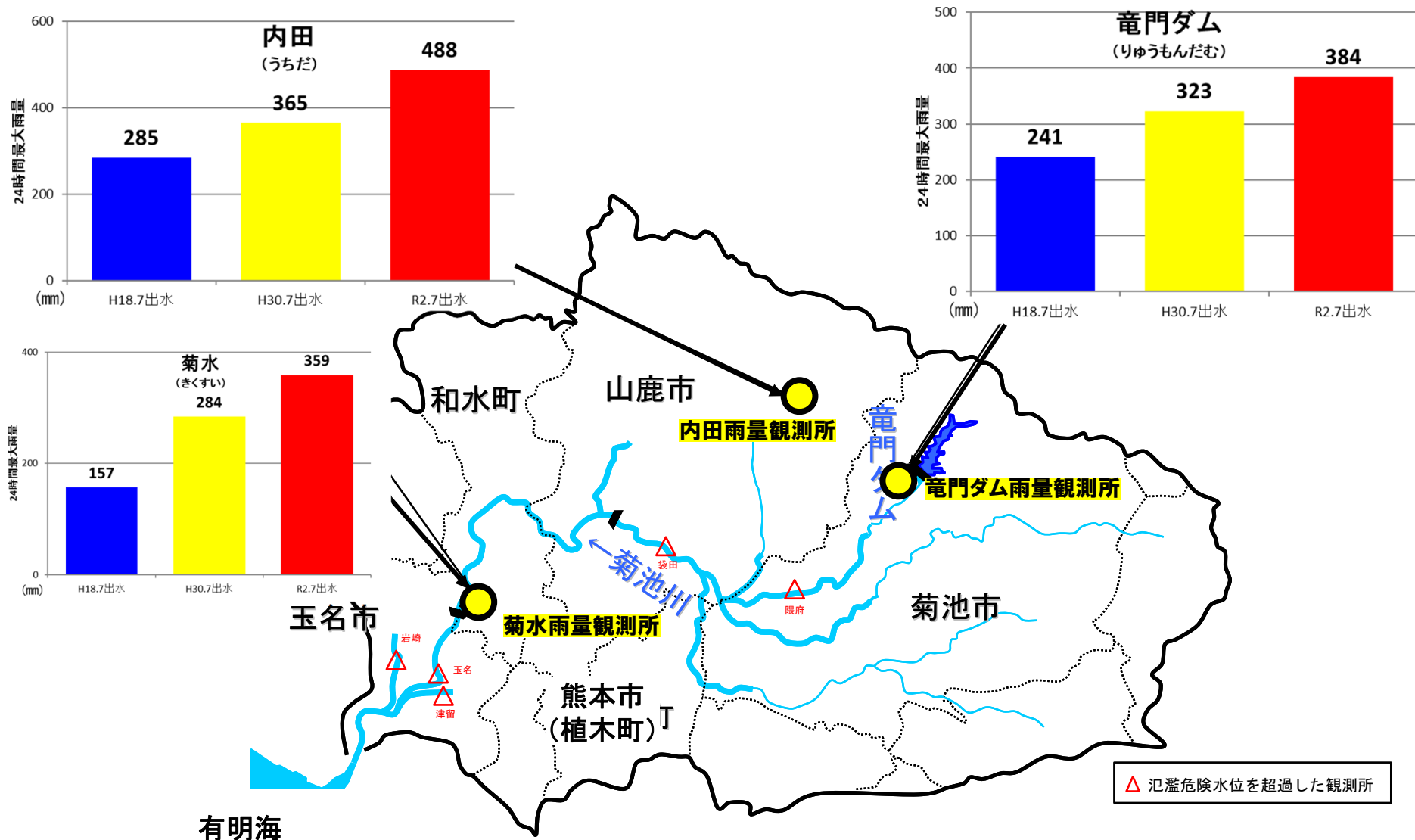
1. 水位の状況（袋田）



※本資料の数値は速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

2. 雨量の状況（菊池川流域）

菊池川流域では、竜門ダム（りゅうもんだむ）、内田（うちだ）、菊水（きくすい）雨量観測所において、近年の主な出水を上回る24時間雨量を観測しました。

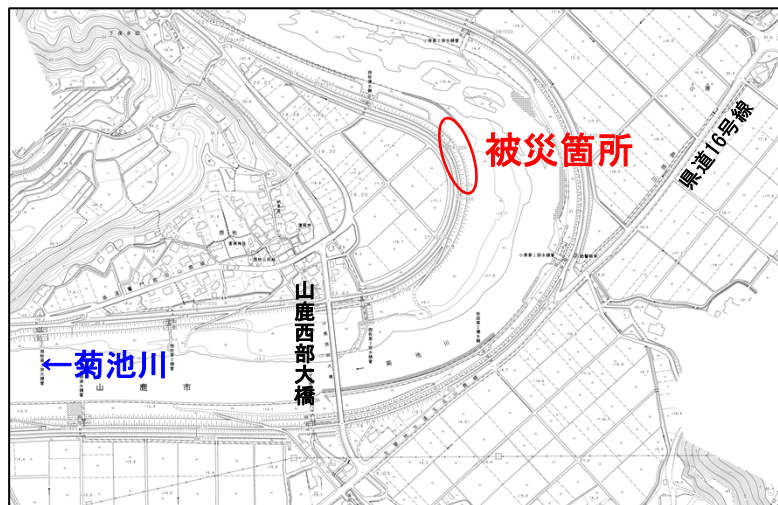


本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

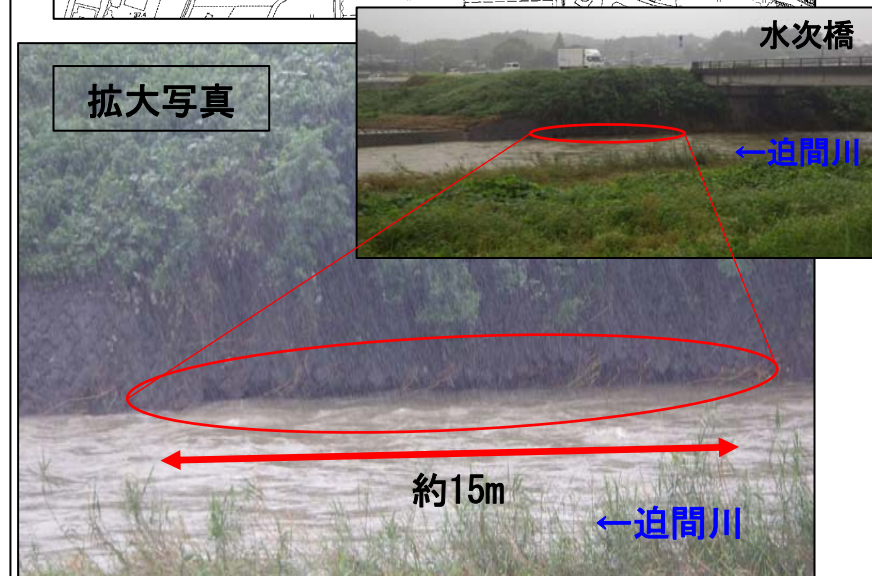
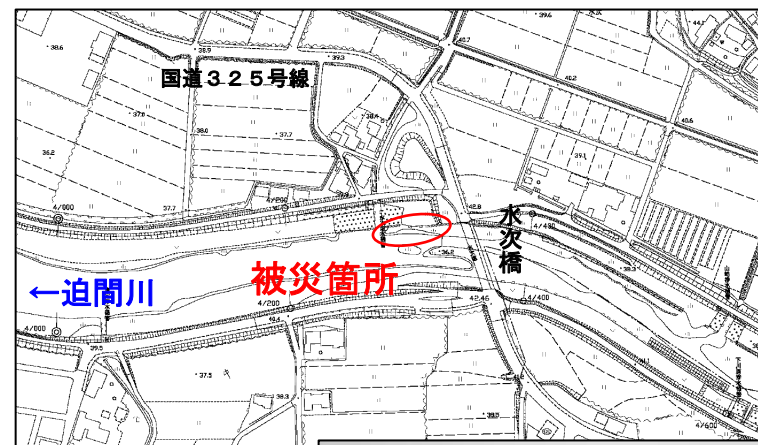
3. 主な被災箇所

○今回の出水による主な被災箇所は以下のとおりです。

- ・ 菊池川右岸 28k000 (山鹿市西牧地先)
被災延長 L = 約 40m



- ・ 迫間川右岸 4k350 (菊池市高田地先)
被災延長 L = 約 15m



<参考>治水事業の効果 合志川河川改修

これまでの河川整備(堰改築及び河道掘削)が効果を発揮(合志川)

令和2年7月6日洪水では、菊池川(玉名地点)及び支川において氾濫危険水位を超過する水位を記録した。また、今回の出水において合志川では平成24年度から河川整備(堰改築及び河道掘削)を実施したことにより、河川整備前と比較し、佐野地点において約60cmの水位低減効果(速報値)を発揮し、危険な状態を回避することができた。

洪水の概要

佐野水位観測所

H24.7洪水	R2.7.5洪水	氾濫危険水位
4.89m	2.36m	3.10m
既往1位	今回出水	—

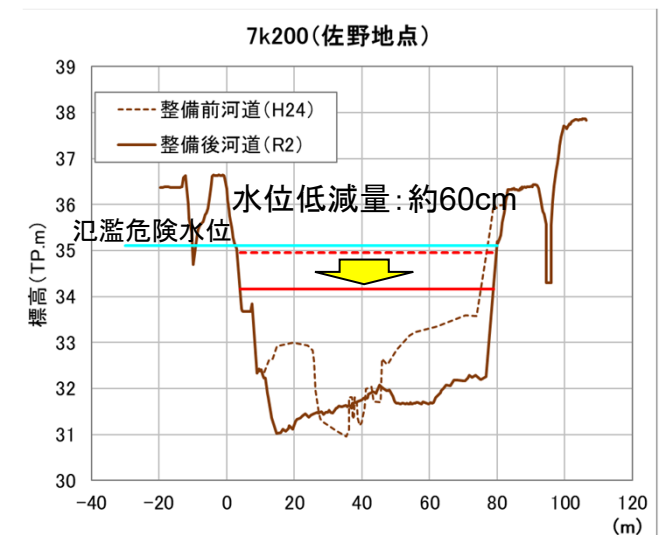
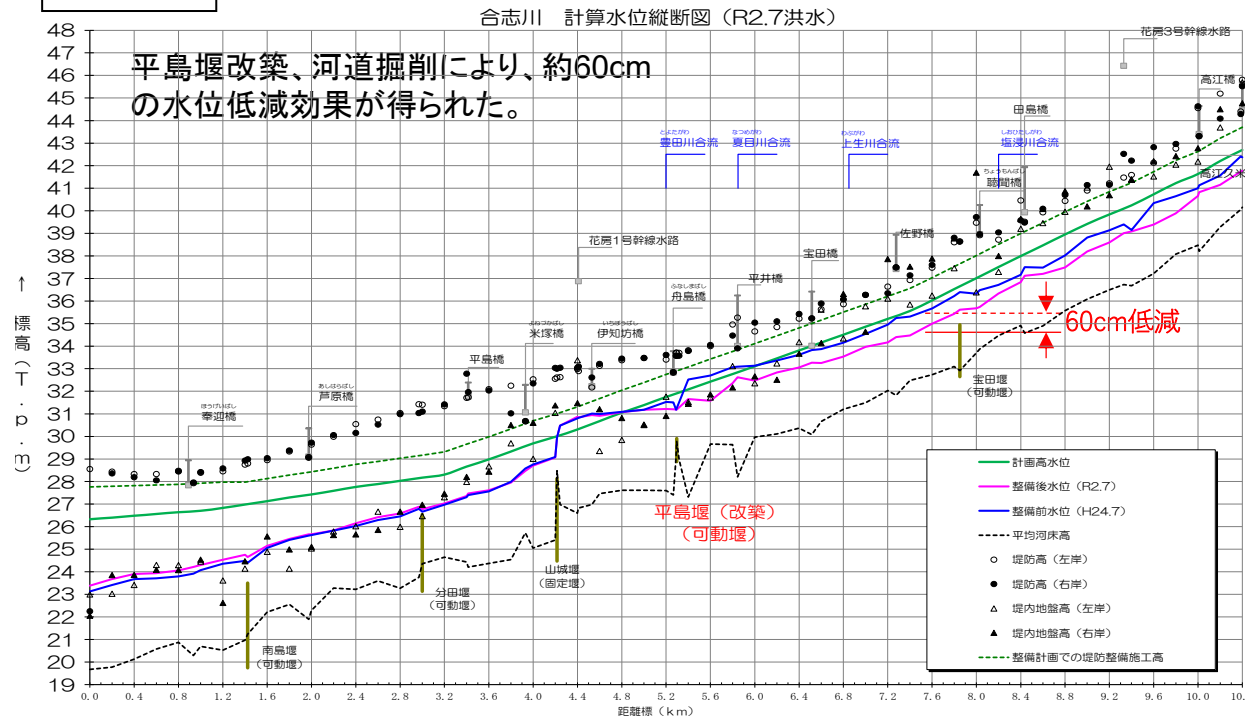
事業の概要

平成24年7月12日の九州北部豪雨等で甚大な被害が発生したことから、概ね20~30年の河川整備計画メニューを前倒し(概ね10年間で集中的に実施。

<実施メニュー>

- ・河道掘削
- ・平島堰改築、舟島橋架替

事業の効果



<参考>治水事業の効果 竜門ダム

きくち 菊池川水系 リゅうもん 竜門ダムの防災操作により、きくち 菊池川の浸水被害を低減(7月6日から7月8日)

- 梅雨前線に伴う豪雨により、ダム上流域において、905.1mm(7月3日4時～7日24時)の累加雨量を観測しました。
- 7月6日17時10分に防災操作を開始し、7月7日23時50分にはダムへの流入量が最大約296m³/秒に達し、ダムに2,663千m³を貯留しました。
- 竜門ダムが整備されていなければ、ダム下流の隈府地点で水位が約0.79m上昇していたと推定されます。



◆竜門ダムの状況

約196m³/秒(=①-②)
少なくなって、流れていたと推測。

①竜門ダムへ流れてきた水量
約296m³/秒
(7月7日23時50分時点)

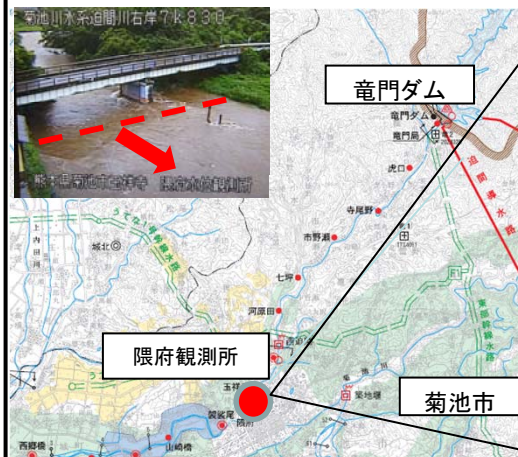
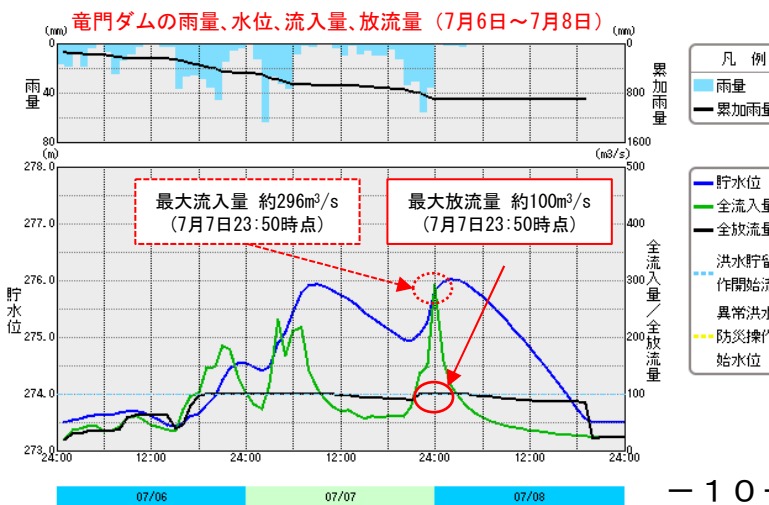
②下流河川へ流した水量
約100m³/秒
(7月7日23時50分時点)

洪水貯留後貯水位：276.02m
(7月8日1時50分時点)

約2.4m上昇

洪水貯留前貯水位：273.63m
(7月3日17時30分時点)

約2,663千m³の水を貯め込んだ。
これは福岡PayPayドームの約1.5杯分です。



【竜門ダムにおける水位低減効果(最大)】

- 水防団待機水位 1.00 m
- 氾濫注意水位 1.50 m
- 避難判断水位 1.60 m
- 氾濫危険水位 1.90 m
- 計画高水位 2.02 m

ダムで調節しなかった場合の推定水位 2.93 m

今回の大雨で観測したダム効果
最大時の河川水位 2.14 m

約0.79m
水位低下

※本資料の数値は、速報値及び暫定値であるため、今後の調査で変わる可能性があります